

# かつての櫛田川における人と川との関わり

平成23年12月19日

# 目次

1. 「かつての櫛田川を語る会」の開催 ..... 1
2. かつての櫛田川における人と川との関わり（まとめ） ..... 4

# 1. 「かつての櫛田川を語る会」の開催

## (1) 開催概要

櫛田川のことをよくご存じの地域の方に、櫛田川のかつての姿や現状及び今後への期待について自由にお話しいただき、自然再生の目標設定に向けた基礎資料とする。

### ●開催概要

開催場所	多気町民文化会館(第1講座室)
開催日時	平成23年11月22日(火)午後2時~4時
参加人数	12名

### ●参加者(敬称略、五十音順)

氏名	所属
青木 弘	漁業組合会員
木下 吉生	相可第2区長
小藪 助次右衛門	松名瀬町自治会長、西黒部地区自治連合会長
鈴木 三千夫	朝見まづくり協議会事務局長
立岡 功	櫛田川上流漁業協同組合
茶谷 明樹	株式会社「うおすけ」代表取締役
堤 幸嗣	櫛田川河川漁業協同組合
中川 勉	前・川島町自治会長、漁業組合会員
中西 紀代一	森を考える会会長
中野 三喜生	射和公民館郷土史会
増田 梅和	櫛田川漁業組合連合会 会長
宮本 里美	松阪市自治会連合会 副会長



# 1. 「かつての櫛田川を語る会」の開催 (2) 意見概要

## ①かつての魚類生息環境について

### <アユ>

- ・昭和30年頃、大平橋でアユが大群で遡上する様子が見られたが、今は見られなくなった。
- ・10年くらい前、東黒部頭首工で海産アユ4 tを採っていた。
- ・瀬が少なくなっている（両郡橋付近に昔は3箇所あったが、今は1箇所しかない）。
- ・櫛田川のアユは泥臭くなっている。

### <サツキマス>

- ・昭和35年頃、東黒部頭首工下流で、45cmくらいのサツキマスが20~30尾採れた。今でも年2尾程度採れる。

### <ウナギ>

- ・昭和25年頃、櫛田川上流でもウナギが良く採れた。
- ・昭和30年頃、東黒部頭首工下流で、真っ黒なウナギがたくさんいた。

### <頭首工の魚道>

- ・昔の堰は高さが低く、網と石で組んだ沈床であったため、魚が遡上しやすかった。
- ・東黒部頭首工には、今の中央魚道の他に蛇籠でつくった魚道が4つ付いていた。
- ・現在は、東黒部頭首工を魚が遡上しても、第二頭首工で遡上できない状況である。
- ・下流では河床に砂や泥が溜まりヨシが増えている。水深が浅くなっているなので、浚渫した方がよい。



# 1. 「かつての櫛田川を語る会」の開催 (2) 意見概要

## ② 櫛田川にまつわる文化

### <アユ>

- ・相可に「みなとや」や「鹿水亭」といった料理屋があり、**屋形船**を出していた。屋形船で**アユ料理**を出していた。
- ・昭和46年ごろ田引より上流では、**アユ解禁に合わせてお祭り**の賑わいを見せていた。
- ・お寺で**アユ供養**をし、供養が終わったら川へ戻している。

### <水運>

- ・**渡し船**が、中万、庄、津留の3箇所にあった。
- ・戦前は、川に材木を流して下流に運ぶ**狩川**として使われていた。櫛田川には、狩川師の宿があった。

### <川遊び>

- ・夏は櫛田川でよく**泳いでいた**。昔は、泳ぐのはプールでなく、川しかなかった。
- ・昔は、花火をあげていた大きな河原があった。また、相可、射和の対岸同士で、石の投げ合いをして**遊んでいた**。

### <農業>

- ・櫛田川の水をつかって、平安後期に櫛田川の水を引いて**農業・稲作**が行われていた。

## ③ 今後の櫛田川への期待

### <連続性の改善>

- ・東黒部頭首工の魚道は、下流に延ばした方が良い。また、ヨシや草のあるところで**土砂を取った**方が良い。

### <水質の改善>

- ・**透明度の高い川、水遊びのできる川**としていきたい。

### <流域連携の取組>

- ・松阪市は住民協議会の設立を目指している。上流の人と下流の人の協力し、**交流**していくことが大事と思う。
- ・浜と山で年2回交流し、山の手入れ、浜の掃除をしているが、真ん中との交流は無い。
- ・環境に関して、宮川のように調査結果を公表して、みんなで取り組むような**情報発信**が必要と思う。
- ・山から含めて、川にとって何がいいのか、根本的に必要なことをやっていく必要がある。

## 2. かつての櫛田川における人と川との関わり（まとめ）

- ・「かつての櫛田川を語る会」における意見や既往文献の記述を踏まえると、かつての櫛田川流域は、上流（山）からの恩恵を下流で享受し、下流（河口）からの恩恵を上流で享受するという互惠関係にあった。櫛田川流域は、川の恵みによって人々の生活を支え、歴史・文化が育まれてきた。
- ・かつての流域は、これらの恩恵を享受し育まれてきたアユ漁、水運、食文化や祭事など、櫛田川を軸とした上下流のつながり（交流）が強かったと想定される。

### ■ かつての櫛田川における人と川との関わり

